

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信		4	7	11	7	
	電気電子工学科	夜・通信			13	17	7	
	電子制御工学科	夜・通信			6	10	7	
	情報工学科	夜・通信			13	17	7	
	都市環境デザイン工学科	夜・通信			28	32	7	
	機械・電子システム工学専攻	夜・通信		9	10	19	7	
	電気情報システム工学専攻	夜・通信			10	19	7	
	建設工学専攻	夜・通信			16	25	7	
(備考) ・本科：5 学科 ・専攻科：3 専攻								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・Web シラバス https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 例年、11 月から 1 月末にかけて、次年度開講科目の授業担当者が決まり、授業担当者は、2 月末までにシラバスを作成する。 また、各学科の教務委員は、開講科目が「学習・教育到達目標」、「モデルコアカリキュラム」等とどのように関係しているかを確認し、科目割当て(紐付け)を行う。 授業担当者は、シラバス上で、「科目情報」、「到達目標」、「ループリック」、「教育方法」、「授業計画」、「評価割合」を示し、学生へは、最初の授業でシラバスを配付し、授業の概要について説明する。 シラバス公表は、Web 上で 4 月上旬から公表している。	
授業計画書の公表方法	Web シラバス (https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目、シラバス上で示されている授業計画に基づき、授業、小テスト、レポート課題、定期試験、答案返却・解説等が行われる。 また、授業担当者は、シラバス上で示されている成績評価の割合に基づき、成績評価を行う。 (1) 本科 例年、定期試験を実施後、「成績会議」を開催している。(4回/年) (①前期中間試験、②前期末試験、③後期中間試験、④後期末試験(進級判定・卒業判定)) この成績会議では、試験結果に基づき授業担当者が入力した「評価点」、「欠課時数」に基づき、学生毎の「総点」、「平均点」、「席次」、「修得単位数」等が示された会議資料を確認し、各科目の修得状況、学生の単位修得状況、得点の分布等について確認する。 また、各科目の履修認定が行われる。 (2) 専攻科 例年、定期試験を実施後、「成績会議」を開催している。(2回/年) (①前期末試験、②後期末試験(専攻科成績会議・修了判定会議)) この成績会議では、本科と同様に試験結果に基づき授業担当者が入力した「評価点」、「欠課時数」に基づき、学生毎の「総点」、「平均点」、「席次」、「修得単位数」等が示された会議資料を確認し、各科目の修得状況、学生の単位修得状況、得点の分布等について確認する。 また、各科目の履修認定が行われる。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価については、授業担当者がシラバスで示している成績評価の基準(評価割合)に基づき、前学期末と後学期末に100点法で成績を算出している。 (参考) Web シラバス : (https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50&lang=ja) 各クラスの順位については、上記内容に基づき入力された各科目の成績を合算し、科目数で除した「平均点」に基づき順位づけが行われる。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	(https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2021/02/35f99a3015056e5b2c31c7cc2181cab5.pdf)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 各学年の進級要件、各学科の卒業要件は、学生便覧、ホームページ上で公表して、学生及び教職員へ周知している。 卒業認定（本科）、修了認定（専攻科）については、「卒業判定会議」、「修了判定会議」を開催し（開催：2～3月上旬）、学生毎の科目の履修認定、卒業認定、修了認定を行っている。 ○卒業要件（本科） ・出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること。 ・当該学年の必修科目の単位をすべて修得していること。 ・学科が指定する科目の単位を修得していること。 ・一般科目 75 単位、専門科目 82 単位を含んで 167 単位以上修得していること。 ○修了要件（専攻科） ・62 単位以上（そのうち、すべての必修科目を含み一般科目 8 単位以上、専門共通科目 16 単位以上、専門科目 32 単位以上）修得していること。 ・連携教育プログラムの場合は、全ての必修科目を含み 62 単位以上修得していること。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	・学生便覧 ・ホームページ (1) 本科 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf) (2) 専攻科 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/acd80e1b8f6b322cb4b2e68da45c15fe.pdf)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:外部評価委員会から評価を受け、その結果をホームページ上に掲載している。 (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/disclosure/)

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等) (概要) 機械工学科では、「ものづくりの根幹を支える機械工学分野全般の知識を応用し、最先端の 高度な技術に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技 術者」の育成を目的とする。また、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、 活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf)、 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/diploma/)、学生便覧) (概要) 【機械工学科】 (ディプロマ・ポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、育成する人材像(準学 士課程・各学科)および各学科の教育目的に基づき、「技術者に必要な資質と能力」および「学 習・教育到達目標(全学科共通)」を以下に定める。 「学習・教育到達目標」は、「技術者として必要な資質と能力」を身につけるために定める卒業時の到達目標であり、「学習・教育到達目標」に示す各目標を達成するために、一般科目、専門科目、実験・実習科目を適切に配置している。本校は、これらの科目の学修を通じて必要な資質や能力を身につけ、学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則に定める基準を 満たした学生に対して卒業を認定する。 ○卒業要件 ・各学年の出席日数が 3 分の 2 以上出席していること。 ・全ての「必修科目」を修得していること。 ・一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上を含み、合計 167 単位以上修得していること。 【本校の育成する人材像】 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者 2. グローバルに活躍する技術者 3. 創造力豊かな開発型技術者 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者 【各学科の育成する人材像】 (1) 全学科共通 ・創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者 (2) 学科別 ①機械工学科 ・ものづくりの根幹を支える機械工学分野全般の知識を応用し、最先端の高度な技術

に対応で ける技術者 【技術者に必要な資質と能力】 (1)全学科共通 ・人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 ・グローバルに活躍する力を身につける。 ・創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 ・相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 (2)学科別 ①機械工学科 ・機械工学分野の基礎を修得し、ものづくりにおける最先端で高度な技術に対応できる力を身につける。 【学習・教育到達目標(全学科共通)】 (D-1)人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 1-a:現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。 1-b:様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。 (D-2)グローバルに活躍する力を身につける。 2-a:日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。 2-b:英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。 (D-3)創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 3-a:専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。 3-b:コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。 3-c:専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。 3-d:ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。 (D-4)相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 4-a:技術者の社会的な責任を理解することができる。 4-b:様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/curriculum/、学生便覧等) (概要) 【機械工学科】(カリキュラム・ポリシー) 本校では、ディプロマ・ポリシーで示した「技術者に必要な資質と能力(学習・教育到達目標)」を身につけるために、「学習・教育到達目標との科目対応表」で示す科目を開設している。 また、学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるために well-being 志向教育、学生が「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢を育むために「ポジティブ教育(Positive Education)」を行っている。 1年次は、学生間の交流と幅広い視野を養うために全学科で構成する「混合クラス」とする。教育課程は、一般科目を中心に配置し、専門科目は①共通実験(工学基礎実習)、②PBL(Project-Based Learning)科目(創作活動)、③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシー)を中心に配置する。 2年次以降は、「学科毎のクラス編成」とし、学年が上がるにつれ専門科目が増えていく(くさび型教育)教育課程を編成し、創造性の育成と能動的学習の推進を図るた
--	---

めに全学年で「PBL 科目」を配置する。 その他、幅広い知識と教養を身につけるために 2 年次に「リベラルアーツ I」、3 年次に「リベラルアーツ II」、インターンシップとして 4 年次に「工場実習 A、B」を配置する。 5 年次は、これまでに学修した知識と技術の集大成として「卒業研究」を配置し(情報工学科は 4 年次後期から)、卒業研究、論文作成、研究発表等を行う。 ＜1 年次＞ ①共通実験(工学基礎実習) ・全学科の実験・実習を体験する。 ②PBL 科目(創作活動) ・各グループで問題に取り組み、その成果を他者へ発信し学習する。 ・物事の考え方、整理方法、情報の伝え方を学習する。 ③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ) ・情報分野の正しい知識を身につける。 ＜2・3 年次＞ ①「リベラルアーツ I」(2 年次) ・「答えがない課題(5 つのテーマ)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 ②「リベラルアーツ II」(3 年次) ・「答えがない課題(Well-being、企業からの課題)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 ＜4・5 年次＞ ①「工場実習 A、B」(4 年次) ・職場体験を通じて、職業意識を啓発する。(企業、大学等) ・実習期間は、工場実習 A が 4 日間以上、工場実習 B が 8 日間以上とする。 ②卒業研究(5 年次) ・担当教員の指導の下、研究テーマに基づき、研究・実験・解析結果等を論文にまとめ、報告(プレゼン)する。 (1)科目構成 ①機械工学科 ・D-1：一般科目(国語系、社会系、芸術系、リベラルアーツ系) 専門科目(実験系、デザイン系)、卒業研究 ・D-2：一般科目(国語系、社会系、リベラルアーツ系、外国語系)、卒業研究 ・D-3：一般科目(数学系、理科系) 専門科目(数学系、物理系、情報系、機械系、実験・実習系、演習系、 デザイン系)、卒業研究 ・D-4：一般科目(社会系、スポーツ系、外国語系) 専門科目(実験・実習系) (2)成績の評価方法に関する方針 一般科目(国語系、社会系、外国語系、数学系、理科系)、専門科目(座学)は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。 一般科目(リベラルアーツ系)、専門科目(実験・実習、演習系)、卒業研究は、主に制作物や発表、レポート、取り組み等の総合評価が合格点以上になることで単位認定される。 ＜評価方法＞ ①講義形式の授業・・・定期試験、小テスト、課題、レポートなど ②実技を伴う授業・・・実技テスト、筆記試験、課題、レポートなど ③実験・実習・製図および PBL(ProjectBasedLearning)、卒業研究 ・・・課題、レポート、制作物、発表、論文、研究発表など (3)成績の評価および単位認定基準 成績の評価は、各科目シラバスの評価項目に基づき総合的に評価する。(原則:100

点法) 単位認定基準は、100 点法で評価する場合は「60 点」以上、100 点法で評価しない場合は「合格」となる。 ①100 点法で評価する科目 標語 評価 優 評点 80 点以上 良 評点 70 点以上～80 点未満 可 評点 60 点以上～70 点未満 不可 評点 60 点未満 ②100 点法で評価しない科目(工場実習 A、工場実習 B) 標語 評価 合 合格 否 不合格	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission/、募集要項等）
(概要) (アドミッションポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)に定める人材を育成するため、次のような人を求めています。 (1)求める学生像(全学科共通(編入学生含む)) ①「ものづくり」に興味があり、基礎学力が身についている人 ②グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍したい人 ③多様な考え方を理解し、仲間と協働して活動できる人 ④自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ⑤技術者として社会の発展に貢献したいという夢のある人 (2)入学者選抜の基本方針 1)推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 2)学力選抜 学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 3)帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象で、学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 4)編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査、口頭試問・面接の結果、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書、推薦書の内容をもとに総合的に判定する。	
学部等名 電気電子工学科	教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)

(概要) 電気電子工学科では、「電気電子・情報通信技術の基礎を着実に修得し、ハードウェアとソフトウェアの融合技術を含めた多様な分野において、新たな社会的価値創出に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目的とする。また、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf)、(https://www.kagoshima-ct.ac.jp/diploma/)、学生便覧)
(概要) 【電気電子工学科】(ディプロマ・ポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、育成する人材像(準学士課程・各学科)および各学科の教育目的に基づき、「技術者に必要な資質と能力」および「学習・教育到達目標(全学科共通)」を以下に定める。 「学習・教育到達目標」は、「技術者として必要な資質と能力」を身につけるために定める卒業時の到達目標であり、「学習・教育到達目標」に示す各目標を達成するために、一般科目、専門科目、実験・実習科目を適切に配置している。本校は、これらの科目の学修を通じて必要な資質や能力を身につけ、学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則に定める基準を満たした学生に対して卒業を認定する。 ○卒業要件 ・各学年の出席日数が3分の2以上出席していること。 ・全ての「必修科目」を修得していること。 ・一般科目75単位以上、専門科目82単位以上を含み、合計167単位以上修得していること。 【本校の育成する人材像】 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者 2. グローバルに活躍する技術者 3. 創造力豊かな開発型技術者 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者 【各学科の育成する人材像】 (1) 全学科共通 ・創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者 (2) 学科別 ②電気電子工学科 ・電気電子・情報通信技術の基礎を着実に修得し、ハードウェアとソフトウェアの融合技術を含めた多様な分野において、新たな社会的価値創出に対応できる技術者 【技術者に必要な資質と能力】 (1) 全学科共通 ・人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 ・グローバルに活躍する力を身につける。 ・創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 ・相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 (2) 学科別 ②電気電子工学科 ・電気電子工学・情報通信工学分野の基礎を修得し、ハードウェアとソフトウェアの融合技術を含めた多様な分野において、新たな社会的価値創出に対応できる力を身につける。 【学習・教育到達目標(全学科共通)】

(D-1) 人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 1-a: 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。 1-b: 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。 (D-2) グローバルに活躍する力を身につける。 2-a: 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。 2-b: 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。 (D-3) 創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 3-a: 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。 3-b: コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。 3-c: 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。 3-d: ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。 (D-4) 相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 4-a: 技術者の社会的な責任を理解することができる。 4-b: 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/curriculum/、学生便覧等)
(概要) 【電気電子工学科】 (カリキュラム・ポリシー) 本校では、ディプロマ・ポリシーで示した「技術者に必要な資質と能力(学習・教育到達目標)」を身につけるために、「学習・教育到達目標との科目対応表」で示す科目を開設している。 また、学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるために well-being 志向教育、学生が「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢を育むために「ポジティブ教育(Positive Education)」を行っている。 1 年次は、学生間の交流と幅広い視野を養うために全学科で構成する「混合クラス」とする。教育課程は、一般科目を中心に配置し、専門科目は①共通実験(工学基礎実習)、② PBL (Project-Based Learning) 科目(創作活動)、③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシー)を中心に配置する。 2 年次以降は、「学科毎のクラス編成」とし、学年が上がるにつれ専門科目が増えていく(くさび型教育)教育課程を編成し、創造性の育成と能動的学習の推進を図るために全学年で「PBL 科目」を配置する。 その他、幅広い知識と教養を身につけるために 2 年次に「リベラルアーツ I」、3 年次に「リベラルアーツ II」、インターンシップとして 4 年次に「工場実習 A、B」を配置する。 5 年次は、これまでに学修した知識と技術の集大成として「卒業研究」を配置し(情報工学科は 4 年次後期から)、卒業研究、論文作成、研究発表等を行う。 <1 年次> ①共通実験(工学基礎実習) ・全学科の実験・実習を体験する。 ②PBL 科目(創作活動) ・各グループで問題に取り組み、その成果を他者へ発信し学習する。 ・物事の考え方、整理方法、情報の伝え方を学習する。

③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ)

・情報分野の正しい知識を身につける。

<2・3年次>

①「リベラルアーツⅠ」(2年次)

・「答えがない課題(5つのテーマ)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。

②「リベラルアーツⅡ」(3年次)

・「答えがない課題(Well-being、企業からの課題)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。

<4・5年次>

①「工場実習A、B」(4年次)

・職場体験を通じて、職業意識を啓発する。(企業、大学等)

・実習期間は、工場実習Aが4日間以上、工場実習Bが8日間以上とする。

②卒業研究(5年次)

・担当教員の指導の下、研究テーマに基づき、研究・実験・解析結果等を論文にまとめ、報告(プレゼン)する。

(1)科目構成

②電気電子工学科

・D-1：一般科目(国語系、社会系、芸術系、リベラルアーツ系)
専門科目(実験・実習系)、卒業研究

・D-2：一般科目(国語系、社会系、リベラルアーツ系、外国語系)
専門科目(実験・実習系)、卒業研究

・D-3：一般科目(数学系、理科系)
専門科目(数学系、物理系、情報系、電気・電子系、実験・実習系、演習系、デザイン系)、卒業研究

・D-4：一般科目(社会系、スポーツ系、外国語系)
専門科目(実験・実習系)

(2)成績の評価方法に関する方針

一般科目(国語系、社会系、外国語系、数学系、理科系)、専門科目(座学)は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

一般科目(リベラルアーツ系)、専門科目(実験・実習、演習系)、卒業研究は、主に制作物や発表、レポート、取り組み等の総合評価が合格点以上になることで単位認定される。

<評価方法>

①講義形式の授業・・・定期試験、小テスト、課題、レポートなど

②実技を伴う授業・・・実技テスト、筆記試験、課題、レポートなど

③実験・実習・製図およびPBL(ProjectBasedLearning)、卒業研究
・・・課題、レポート、制作物、発表、論文、研究発表など

(3)成績の評価および単位認定基準

成績の評価は、各科目シラバスの評価項目に基づき総合的に評価する。(原則:100点法)

単位認定基準は、100点法で評価する場合は「60点」以上、100点法で評価しない場合は「合格」となる。

①100点法で評価する科目

標語	評価
優	評点 80 点以上
良	評点 70 点以上～80 点未満
可	評点 60 点以上～70 点未満
不可	評点 60 点未満

②100点法で評価しない科目(工場実習A、工場実習B)

標語 評価 合 合格 否 不合格
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission/、募集要項等）
（概要） （アドミッションポリシー） 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）に定める人材を育成するため、次のような人を求めています。 (1) 求める学生像（全学科共通（編入学生含む）） ①「ものづくり」に興味があり、基礎学力が身についている人 ②グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍したい人 ③多様な考え方を理解し、仲間と協働して活動できる人 ④自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ⑤技術者として社会の発展に貢献したいという夢のある人 (2) 入学者選抜の基本方針 1) 推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 2) 学力選抜 学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 3) 帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象で、学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 4) 編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査、口頭試問・面接の結果、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書、推薦書の内容をもとに総合的に判定する。
学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的 （公表方法：ホームページ（http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/）、学生便覧等）
（概要） 電子制御工学科では、「多岐にわたる電子制御工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目的とする。また、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同（教育、活動）をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行う。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：ホームページ（https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf）、 https://www.kagoshima-ct.ac.jp/diploma/）、学生便覧）

(概要)

【電子制御工学科】（ディプロマ・ポリシー）

本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、育成する人材像（準学士課程・各学科）および各学科の教育目的に基づき、「技術者に必要な資質と能力」および「学習・教育到達目標（全学科共通）」を以下に定める。

「学習・教育到達目標」は、「技術者として必要な資質と能力」を身につけるために定める卒業時の到達目標であり、「学習・教育到達目標」に示す各目標を達成するために、一般科目、専門科目、実験・実習科目を適切に配置している。本校は、これらの科目の学修を通じて必要な資質や能力を身につけ、学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則に定める基準を満たした学生に対して卒業を認定する。

○卒業要件

- ・各学年の出席日数が3分の2以上出席していること。
- ・全ての「必修科目」を修得していること。
- ・一般科目75単位以上、専門科目82単位以上を含み、合計167単位以上修得していること。

【本校の育成する人材像】

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
2. グローバルに活躍する技術者
3. 創造力豊かな開発型技術者
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

【各学科の育成する人材像】

(1) 全学科共通

- ・創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者

(2) 学科別

③電子制御工学科

- ・多岐にわたる電子制御工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者

【技術者に必要な資質と能力】

(1) 全学科共通

- ・人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。
- ・グローバルに活躍する力を身につける。
- ・創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。
- ・相手の立場に立ってものを考える力を身につける。

(2) 学科別

- ③電子制御工学科・電子制御工学分野の基礎を修得し、最先端の高度な技術に対応できる力を身につける。

【学習・教育到達目標（全学科共通）】

(D-1) 人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。

1-a: 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。

1-b: 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。

(D-2) グローバルに活躍する力を身につける。

2-a: 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。

2-b: 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。

(D-3) 創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。

3-a: 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。

3-b: コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通し

て、有用な情報を取得することができる。 3-c：専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。 3-d：ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。 (D-4)相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 4-a：技術者の社会的な責任を理解することができる。 4-b：様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/curriculum/、学生便覧等)
(概要) 【電子制御工学科】 (カリキュラム・ポリシー) 本校では、ディプロマ・ポリシーで示した「技術者に必要な資質と能力(学習・教育到達目標)」を身につけるために、「学習・教育到達目標との科目対応表」で示す科目を開設している。 また、学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるために well-being 志向教育、学生が「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢を育むために「ポジティブ教育(Positive Education)」を行っている。 1 年次は、学生間の交流と幅広い視野を養うために全学科で構成する「混合クラス」とする。教育課程は、一般科目を中心に配置し、専門科目は①共通実験(工学基礎実習)、② PBL (Project-Based Learning) 科目(創作活動)、③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ)を中心に配置する。 2 年次以降は、「学科毎のクラス編成」とし、学年が上がるにつれ専門科目が増えていく(くさび型教育)教育課程を編成し、創造性の育成と能動的学習の推進を図るために全学年で「PBL 科目」を配置する。 その他、幅広い知識と教養を身につけるために 2 年次に「リベラルアーツ I」、3 年次に「リベラルアーツ II」、インターンシップとして 4 年次に「工場実習 A、B」を配置する。 5 年次は、これまでに学修した知識と技術の集大成として「卒業研究」を配置し(情報工学科は 4 年次後期から)、卒業研究、論文作成、研究発表等を行う。 <1 年次> ①共通実験(工学基礎実習) ・全学科の実験・実習を体験する。 ②PBL 科目(創作活動) ・各グループで問題に取り組み、その成果を他者へ発信し学習する。 ・物事の考え方、整理方法、情報の伝え方を学習する。 ③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ) ・情報分野の正しい知識を身につける。 <2・3 年次> ①「リベラルアーツ I」(2 年次) ・「答えがない課題(5つのテーマ)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 ②「リベラルアーツ II」(3 年次) ・「答えがない課題(Well-being、企業からの課題)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 <4・5 年次> ①「工場実習 A、B」(4 年次) ・職場体験を通じて、職業意識を啓発する。(企業、大学等) ・実習期間は、工場実習 A が 4 日間以上、工場実習 B が 8 日間以上とする。 ②卒業研究(5 年次)

・担当教員の指導の下、研究テーマに基づき、研究・実験・解析結果等を論文にまとめ、報告（プレゼン）する。 (1)科目構成 ③電子制御工学科 ・D-1：一般科目(国語系、社会系、芸術系、リベラルアーツ系) 専門科目(実験・実習系)、卒業研究 ・D-2：一般科目(国語系、社会系、リベラルアーツ系、外国語系)、卒業研究 ・D-3：一般科目(数学系、理科系) 専門科目(数学系、物理系、情報系、機械系、電気・電子系、実験・実習系、演習系、デザイン系)、卒業研究 ・D-4：一般科目(社会系、スポーツ系、外国語系) 専門科目(実験・実習系) (2)成績の評価方法に関する方針 一般科目(国語系、社会系、外国語系、数学系、理科系)、専門科目(座学)は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。 一般科目(リベラルアーツ系)、専門科目(実験・実習、演習系)、卒業研究は、主に制作物や発表、レポート、取り組み等の総合評価が合格点以上になることで単位認定される。 ＜評価方法＞ ①講義形式の授業・・・定期試験、小テスト、課題、レポートなど ②実技を伴う授業・・・実技テスト、筆記試験、課題、レポートなど ③実験・実習・製図およびPBL(ProjectBasedLearning)、卒業研究 ・・・課題、レポート、制作物、発表、論文、研究発表など (3)成績の評価および単位認定基準 成績の評価は、各科目シラバスの評価項目に基づき総合的に評価する。(原則:100点法) 単位認定基準は、100点法で評価する場合は「60点」以上、100点法で評価しない場合は「合格」となる。 ①100点法で評価する科目 <table border="1"> <tr> <td>標語</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>評点 80 点以上</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>評点 70 点以上～80 点未満</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>評点 60 点以上～70 点未満</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>評点 60 点未満</td> </tr> </table> ②100点法で評価しない科目(工場実習 A、工場実習 B) <table border="1"> <tr> <td>標語</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>否</td> <td>不合格</td> </tr> </table>	標語	評価	優	評点 80 点以上	良	評点 70 点以上～80 点未満	可	評点 60 点以上～70 点未満	不可	評点 60 点未満	標語	評価	合	合格	否	不合格	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission/、募集要項等） (概要) (アドミッションポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)に定める人材を育成するため、次のような人を求めています。 (1)求める学生像(全学科共通(編入学生含む)) ①「ものづくり」に興味があり、基礎学力が身についている人 ②グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍したい人 ③多様な考え方を理解し、仲間と協働して活動できる人
標語	評価																
優	評点 80 点以上																
良	評点 70 点以上～80 点未満																
可	評点 60 点以上～70 点未満																
不可	評点 60 点未満																
標語	評価																
合	合格																
否	不合格																

④自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ⑤技術者として社会の発展に貢献したいという夢のある人 (2)入学者選抜の基本方針 1)推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 2)学力選抜 学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 3)帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象で、学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 4)編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査、口頭試問・面接の結果、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書、推薦書の内容をもとに総合的に判定する。	
学部等名 情報工学科	
教育研究上の目的	
(公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)	
(概要)	
情報工学科では、「ソフトウェアやハードウェアはもちろん、それらに係わる情報セキュリティに対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目的としている。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っている。	
卒業の認定に関する方針	
(公表方法：ホームページ (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf)、 (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/diploma/)、学生便覧)	
(概要)	
【情報工学科】(ディプロマ・ポリシー)	
本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、育成する人材像(準学士課程・各学科)および各学科の教育目的に基づき、「技術者に必要な資質と能力」および「学習・教育到達目標(全学科共通)」を以下に定める。	
「学習・教育到達目標」は、「技術者として必要な資質と能力」を身につけるために定める卒業時の到達目標であり、「学習・教育到達目標」に示す各目標を達成するために、一般科目、専門科目、実験・実習科目を適切に配置している。本校は、これらの科目の学修を通じて必要な資質や能力を身につけ、学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則に定める基準を満たした学生に対して卒業を認定する。	
○卒業要件	
・各学年の出席日数が3分の2以上出席していること。 ・全ての「必修科目」を修得していること。 ・一般科目75単位以上、専門科目82単位以上を含み、合計167単位以上修得していること。	
【本校の育成する人材像】	
1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	
2. グローバルに活躍する技術者	

3. 創造力豊かな開発型技術者 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者 【各学科の育成する人材像】 (1) 全学科共通 ・創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者 (2) 学科別 ④情報工学科 ・ソフトウェアやハードウェアはもちろん、それらに係わる情報セキュリティに対応できる技術者 【技術者に必要な資質と能力】 (1) 全学科共通 ・人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 ・グローバルに活躍する力を身につける。 ・創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 ・相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 (2) 学科別 ④情報工学科 ・ソフトウェアとハードウェアの基礎を修得し、それらに係わる情報セキュリティにも対応できる力を身につける。 【学習・教育到達目標(全学科共通)】 (D-1) 人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 1-a: 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。 1-b: 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。 (D-2) グローバルに活躍する力を身につける。 2-a: 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。 2-b: 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。 (D-3) 創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 3-a: 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。 3-b: コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。 3-c: 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。 3-d: ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。 (D-4) 相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 4-a: 技術者の社会的な責任を理解することができる。 4-b: 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/curriculum/、 学生便覧等)	
(概要) 【情報工学科】 (カリキュラム・ポリシー) 本校では、ディプロマ・ポリシーで示した「技術者に必要な資質と能力(学習・教育到達目標)」を身につけるために、「学習・教育到達目標との科目対応表」で示す科目を開設している。 また、学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるために well-being 志向	

教育」、学生が「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢を育むために「ポジティブ教育(Positive Education)」を行っている。 1 年次は、学生間の交流と幅広い視野を養うために全学科で構成する「混合クラス」とする。教育課程は、一般科目を中心に配置し、専門科目は①共通実験(工学基礎実習)、② PBL (Project-Based Learning) 科目(創作活動)、③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ)を中心に配置する。 2 年次以降は、「学科毎のクラス編成」とし、学年が上がるにつれ専門科目が増えていく(くさび型教育)教育課程を編成し、創造性の育成と能動的学習の推進を図るために全学年で「PBL 科目」を配置する。 その他、幅広い知識と教養を身につけるために 2 年次に「リベラルアーツ I」、3 年次に「リベラルアーツ II」、インターンシップとして 4 年次に「工場実習 A、B」を配置する。 5 年次は、これまでに学修した知識と技術の集大成として「卒業研究」を配置し(情報工学科は 4 年次後期から)、卒業研究、論文作成、研究発表等を行う。 <1 年次> ①共通実験(工学基礎実習) ・全学科の実験・実習を体験する。 ②PBL 科目(創作活動) ・各グループで問題に取り組み、その成果を他者へ発信し学習する。 ・物事の考え方、整理方法、情報の伝え方を学習する。 ③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ) ・情報分野の正しい知識を身につける。 <2・3 年次> ①「リベラルアーツ I」(2 年次) ・「答えがない課題(5 つのテーマ)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 ②「リベラルアーツ II」(3 年次) ・「答えがない課題(Well-being、企業からの課題)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 <4・5 年次> ①「工場実習 A、B」(4 年次) ・職場体験を通じて、職業意識を啓発する。(企業、大学等) ・実習期間は、工場実習 A が 4 日間以上、工場実習 B が 8 日間以上とする。 ②卒業研究(5 年次) ・担当教員の指導の下、研究テーマに基づき、研究・実験・解析結果等を論文にまとめ、報告(プレゼン)する。 (1)科目構成 ④情報工学科 ・D-1：一般科目(国語系、社会系、芸術系、リベラルアーツ系) 専門科目(実験系)、卒業研究 ・D-2：一般科目(国語系、社会系、リベラルアーツ系、外国語系)、卒業研究 ・D-3：一般科目(数学系、理科系) 専門科目(数学系、物理系、情報系、電気・電子系、実験・実習系、デザイン系)、卒業研究 ・D-4：一般科目(社会系、スポーツ系、外国語系) 専門科目(実験・実習系) (2)成績の評価方法に関する方針 一般科目(国語系、社会系、外国語系、数学系、理科系)、専門科目(座学)は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。 一般科目(リベラルアーツ系)、専門科目(実験・実習、演習系)、卒業研究は、主に制作物や発表、レポート、取り組み等の総合評価が合格点以上になることで単位認定さ

れる。 ＜評価方法＞ ①講義形式の授業・・・定期試験、小テスト、課題、レポートなど ②実技を伴う授業・・・実技テスト、筆記試験、課題、レポートなど ③実験・実習・製図およびPBL(ProjectBasedLearning)、卒業研究 ・・・課題、レポート、制作物、発表、論文、研究発表など (3)成績の評価および単位認定基準 成績の評価は、各科目シラバスの評価項目に基づき総合的に評価する。(原則:100点法) 単位認定基準は、100点法で評価する場合は「60点」以上、100点法で評価しない場合は「合格」となる。 ①100点法で評価する科目 <table border="0"> <tr> <td>標語</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>評点 80 点以上</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>評点 70 点以上～80 点未満</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>評点 60 点以上～70 点未満</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>評点 60 点未満</td> </tr> </table> ②100点法で評価しない科目(工場実習 A、工場実習 B) <table border="0"> <tr> <td>標語</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>否</td> <td>不合格</td> </tr> </table>	標語	評価	優	評点 80 点以上	良	評点 70 点以上～80 点未満	可	評点 60 点以上～70 点未満	不可	評点 60 点未満	標語	評価	合	合格	否	不合格	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission/、募集要項等）
標語	評価																
優	評点 80 点以上																
良	評点 70 点以上～80 点未満																
可	評点 60 点以上～70 点未満																
不可	評点 60 点未満																
標語	評価																
合	合格																
否	不合格																
(概要) (アドミッションポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)に定める人材を育成するため、次のような人を求めています。 (1)求める学生像(全学科共通(編入学生含む)) ①「ものづくり」に興味があり、基礎学力が身についている人 ②グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍したい人 ③多様な考え方を理解し、仲間と協働して活動できる人 ④自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ⑤技術者として社会の発展に貢献したいという夢のある人 (2)入学者選抜の基本方針 1)推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 2)学力選抜 学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 3)帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象で、学力検査、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 4)編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査、口頭試問・面接の結果、在籍(又は出身)学校長から提出された調査書、推薦書の内容をもとに総合的に判定する。																	

学部等名 都市環境デザイン工学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)、学生便覧等)
(概要) 都市環境デザイン工学科では、「建設技術を通して様々な社会問題に対応できる技術者」および「創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者」の育成を目的としている。さらに、開発型の教育・研究、また先端企業や地域との共同(教育、活動)をとおして、様々な問題を解決できる能力を身につけ、社会的・経済的に価値ある「ものづくり」ができるようになるための実践教育を行っている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ (https://www.kagoshima-ct.ac.jp/kousenR/wp-content/uploads/2025/05/5f20c9f7d9142866b503b69953267799.pdf)、(https://www.kagoshima-ct.ac.jp/diploma/)、学生便覧)
(概要) 【都市環境デザイン工学科】 (ディプロマ・ポリシー) 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、育成する人材像(準学士課程・各学科)および各学科の教育目的に基づき、「技術者に必要な資質と能力」および「学習・教育到達目標(全学科共通)」を以下に定める。 「学習・教育到達目標」は、「技術者として必要な資質と能力」を身につけるために定める卒業時の到達目標であり、「学習・教育到達目標」に示す各目標を達成するために、一般科目、専門科目、実験・実習科目を適切に配置している。本校は、これらの科目の学修を通じて必要な資質や能力を身につけ、学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則に定める基準を満たした学生に対して卒業を認定する。 ○卒業要件 ・各学年の出席日数が3分の2以上出席していること。 ・全ての「必修科目」を修得していること。 ・一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上を含み、合計 167 単位以上修得していること。 【本校の育成する人材像】 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者 2. グローバルに活躍する技術者 3. 創造力豊かな開発型技術者 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者 【各学科の育成する人材像】 (1) 全学科共通 ・創造性に優れ人格的に立派な国際的に通用する技術者 (2) 学科別 ⑤都市環境デザイン工学科 ・建設技術を通して様々な社会問題に対応できる技術者 【技術者に必要な資質と能力】 (1) 全学科共通 ・人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 ・グローバルに活躍する力を身につける。 ・創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 ・相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 (2) 学科別 ⑤都市環境デザイン工学科 ・建設工学分野の基礎を修得し、様々な社会問題に対応できる力を身につける。 【学習・教育到達目標(全学科共通)】

(D-1) 人類の未来と自然との共存をデザインする力を身につける。 1-a: 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。 1-b: 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。 (D-2) グローバルに活躍する力を身につける。 2-a: 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。 2-b: 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。 (D-3) 創造力豊かな開発型技術者となる力を身につける。 3-a: 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。 3-b: コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。 3-c: 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。 3-d: ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。 (D-4) 相手の立場に立ってものを考える力を身につける。 4-a: 技術者の社会的な責任を理解することができる。 4-b: 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/curriculum/、学生便覧等)
(概要) 【都市環境デザイン工学科】 (カリキュラム・ポリシー) 本校では、ディプロマ・ポリシーで示した「技術者に必要な資質と能力(学習・教育到達目標)」を身につけるために、「学習・教育到達目標との科目対応表」で示す科目を開設している。 また、学生が心身ともに健康で充実した学生生活を送れるために well-being 志向教育、学生が「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢を育むために「ポジティブ教育(Positive Education)」を行っている。 1 年次は、学生間の交流と幅広い視野を養うために全学科で構成する「混合クラス」とする。教育課程は、一般科目を中心に配置し、専門科目は①共通実験(工学基礎実習)、② PBL (Project-Based Learning) 科目(創作活動)、③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ)を中心に配置する。 2 年次以降は、「学科毎のクラス編成」とし、学年が上がるにつれ専門科目が増えていく(くさび型教育)教育課程を編成し、創造性の育成と能動的学習の推進を図るために全学年で「PBL 科目」を配置する。 その他、幅広い知識と教養を身につけるために 2 年次に「リベラルアーツ I」、3 年次に「リベラルアーツ II」、インターンシップとして 4 年次に「工場実習 A、B」を配置する。 5 年次は、これまでに学修した知識と技術の集大成として「卒業研究」を配置し(情報工学科は 4 年次後期から)、卒業研究、論文作成、研究発表等を行う。 <1 年次> ①共通実験(工学基礎実習) ・全学科の実験・実習を体験する。 ②PBL 科目(創作活動) ・各グループで問題に取り組み、その成果を他者へ発信し学習する。 ・物事の考え方、整理方法、情報の伝え方を学習する。 ③情報リテラシー科目(コンピュータリテラシ)

	・情報分野の正しい知識を身につける。 <2・3年次> ①「リベラルアーツⅠ」(2年次) ・「答えがない課題(5つのテーマ)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 ②「リベラルアーツⅡ」(3年次) ・「答えがない課題(Well-being、企業からの課題)」をグループで取り組み、共同で課題解決を図る。 <4・5年次> ①「工場実習A、B」(4年次) ・職場体験を通じて、職業意識を啓発する。(企業、大学等) ・実習期間は、工場実習Aが4日間以上、工場実習Bが8日間以上とする。 ②卒業研究(5年次) ・担当教員の指導の下、研究テーマに基づき、研究・実験・解析結果等を論文にまとめ、報告(プレゼン)する。 (1)科目構成 ⑤都市環境デザイン工学科 ・D-1:一般科目(国語系、社会系、芸術系、リベラルアーツ系) 専門科目(実習・実験系、)、卒業研究 ・D-2:一般科目(国語系、社会系、リベラルアーツ系、外国語系)、卒業研究 ・D-3:一般科目(数学系、理科系) 専門科目(数学系、物理系、情報系、建設系、建築系、実験・実習系、デザイン系)、卒業研究 ・D-4:一般科目(社会系、スポーツ系、外国語系) 専門科目(実験・実習系) (2)成績の評価方法に関する方針 一般科目(国語系、社会系、外国語系、数学系、理科系)、専門科目(座学)は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。 一般科目(リベラルアーツ系)、専門科目(実験・実習、演習系)、卒業研究は、主に制作物や発表、レポート、取り組み等の総合評価が合格点以上になることで単位認定される。 <評価方法> ①講義形式の授業・・・定期試験、小テスト、課題、レポートなど ②実技を伴う授業・・・実技テスト、筆記試験、課題、レポートなど ③実験・実習・製図およびPBL(ProjectBasedLearning)、卒業研究 ・・・課題、レポート、制作物、発表、論文、研究発表など (3)成績の評価および単位認定基準 成績の評価は、各科目シラバスの評価項目に基づき総合的に評価する。(原則:100点法) 単位認定基準は、100点法で評価する場合は「60点」以上、100点法で評価しない場合は「合格」となる。 ①100点法で評価する科目 <table border="1"> <thead> <tr> <th>標語</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>評点 80 点以上</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>評点 70 点以上～80 点未満</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>評点 60 点以上～70 点未満</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>評点 60 点未満</td> </tr> </tbody> </table> ②100点法で評価しない科目(工場実習A、工場実習B) <table border="1"> <thead> <tr> <th>標語</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	標語	評価	優	評点 80 点以上	良	評点 70 点以上～80 点未満	可	評点 60 点以上～70 点未満	不可	評点 60 点未満	標語	評価		
標語	評価														
優	評点 80 点以上														
良	評点 70 点以上～80 点未満														
可	評点 60 点以上～70 点未満														
不可	評点 60 点未満														
標語	評価														

	合 合格 否 不合格
	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission/、募集要項等）
	（概要） （アドミッションポリシー） 本校では、「未来の技術を創る人材を育てる」ことを教育理念に掲げ、ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）に定める人材を育成するため、次のような人を求めています。 （1）求める学生像（全学科共通（編入学生含む）） ①「ものづくり」に興味があり、基礎学力が身についている人 ②グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍したい人 ③多様な考え方を理解し、仲間と協働して活動できる人 ④自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ⑤技術者として社会の発展に貢献したいという夢のある人 （2）入学者選抜の基本方針 1) 推薦選抜 学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書、推薦書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 2) 学力選抜 学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び本校が行う面接により総合的に判定する。 3) 帰国子女特別選抜 日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国において教育を受けた者が対象で、学力検査、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書及び面接の結果をもとに総合的に判定する。 4) 編入学 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び卒業見込みの者が対象で、学力検査、口頭試問・面接の結果、在籍（又は出身）学校長から提出された調査書、推薦書の内容をもとに総合的に判定する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：（<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>）、学校要覧

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
機械工学科	－	2 人	6 人	0 人	0 人	0 人	8 人
電気電子工学科	－	4 人	5 人	1 人	0 人	0 人	10 人
電子制御工学科	－	5 人	3 人	1 人	1 人	0 人	10 人
情報工学科	－	2 人	4 人	0 人	1 人	0 人	7 人
都市環境デザイン工学科	－	3 人	4 人	0 人	3 人	0 人	10 人
一般教育科	－	4 人	11 人	5 人	1 人	0 人	21 人
専攻科	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
特命教授	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		56 人					56 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=08&affiliationId=6716000000					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	40 人 (100%)	12 人 (30.0%)	28 人 (70.0%)	0 人 (0%)
電気電子工学科	38 人 (100%)	12 人 (31.6%)	26 人 (68.4%)	0 人 (0%)
電子制御工学科	41 人 (100%)	14 人 (34.2%)	24 人 (58.5%)	3 人 (7.3%)
情報工学科	43 人 (100%)	18 人 (41.9%)	24 人 (55.8%)	1 人 (2.3%)
都市環境デザイン 工学科	39 人 (100%)	10 人 (25.6%)	29 人 (74.4%)	0 人 (0%)
合計	201 人 (100%)	66 人 (32.8%)	131 人 (65.2%)	4 人 (2.0%)
機械・電子システム 工学専攻	10 人 (100%)	2 人 (20.0%)	8 人 (80.0%)	0 人 (0%)
電気情報システム 工学専攻	8 人 (100%)	1 人 (12.5%)	7 人 (87.5%)	0 人 (0%)
建設工学専攻	5 人 (100%)	3 人 (60.0%)	2 人 (40.0%)	0 人 (0%)
合計	23 人 (100%)	6 人 (26.1%)	17 人 (73.9%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
例年、11月から1月末にかけて、次年度開講科目の授業担当者が決まり、授業担当者は、2月末までにシラバスを作成する。
授業担当者は、シラバス上で、「科目情報」、「到達目標」、「ルーブリック」、「教育方法」、「授業計画」、「評価割合」を示し、学生へは、最初の授業でシラバスを配布し、授業の概要について説明する。
シラバス公表は、Web上で4月上旬から公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・各科目の成績評価の基準は、シラバス上に記載されている。 ・本科卒業並びに専攻科修了の基準は、学生便覧やホームページ上で周知している。 (http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/)				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	都市環境デザイン 工学科	167 単位	有・無	単位
	機械・電子システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
	電気情報システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
	建設工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	約 86,550 円 ～約 98,250 円	教科書代（約 45,000 円） ・実習服等代（約 40,000 円） ・美術用品代（美術選択者のみ対象：約 4,000 円） ・スポーツ振興センター共済掛金（1,550 円/年） ・寄宿料（入寮者のみ対象：8,400 円/年）
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
	都市環境デザイン工学科				
	機械・電子システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	約 20,000 円 ～約 27,700 円	・教科書代（約 20,000 円） ・寄宿料（入寮者のみ対象：8,400 円）
	電気情報システム工学専攻				
	建設工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 本校では、前期科目で単位を修得できなかった場合に再度単位修得の機会を与える再評価制度や、単位を修得できないまま進級した場合に前年度の単位修得の機会を与える再試験制度等を設けており、授業時間外に実施する補講とあわせた修学支援を行っている。 また、鹿児島県技術士会から講師を招き、特別講義を実施しキャリア支援を行っている。 （キャリア教育、技術倫理総論、環境創造工学特別講義、技術倫理） 国際交流関係では、異文化交流（海外語学研修、海外インターンシップ等）の支援や斡旋を行っている。 また、入学科徴収猶予として以下の通り実施している。 該当者：ア 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合 イ 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合 ウ その他やむを得ない事情があると認められる場合 猶予期日：入学年度の2月末まで
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本校では、キャリア支援室を中心にクラス担任、所属学科の学科長が学生の進路について支援を行っており、エントリーシートの書き方や面接指導等を行っている。 また、本科4年次選択科目で「工場実習（インターンシップ）」を設け、学校としてインターンシップを推進している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本校では、学生の諸問題に対応するため、クラス担任による個人面談や、オフィス・アワーズ、カウンセラー・相談員による相談などを実施している。さらに、これらの機能を補充し充実させるために、平成 14 年 2 月に「学生何でも相談室」が開設された。

「学生何でも相談室」は、学生が学校生活を送っていく上で生じるいろいろな疑問や悩み、不安などについて相談を受け、それらについて共に考え、解決の糸口を探る手助けをするところである。学生からの相談だけでなく、学生のストレスマネジメントのひとつとして各種心理テストを取り入れている。また、学生だけでなく、本校関係者（教職員、保護者など）の相談も受け付けている。

相談室のスタッフは、室長、相談員（数名）、カウンセラー（4 名）、相談補助員（看護師）である。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

- ・学校要覧
- ・ホームページ (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/edu-info/>)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。